

みなさま、こんにちは。名理会実践研究部会です。今回は、7月13日(月)に開催された実践研究部会の活動について紹介します。

今回の参加者のみなさん

御田中	八王子中	港北中	日比野中	当知中	植田中
佐々 孝先生	板倉淳一先生	阿比留慶治先生	沖 知憲先生	丹羽良平先生	牧野修平先生
笹島中	沢上中	西福田小	附属中	扇台中	港北中
今井 将先生	山下剛史先生	武田和大先生	奈良 大先生	小比賀正規先生	佐藤友哉先生
御田中	汐路中	天神山中			
國嶋慎吾先生	樽見 宗先生	増田旬一郎先生			

全中理奈良大会に向けて

全中理奈良大会の発表者である港北中学校の佐藤友哉先生に、実践内容を発表していただきました。生徒が自ら課題を設定し、実験計画を立てるために活用しているワークシートは、「最初の考え」「他者からの助言」「新たな課題設定」「学習計画」を一連の流れとして記録できる仕組みとなっており、大変参考になるものでした。

協議では、このワークシートを紹介しながら、「子どもたちがどのようにして自分の課題を設定したのか」を具体的に説明すると、実践の価値がより伝わりやすいのではないかという意見が出されました。また、観察・実験分科会での発表という観点から、「主体的な課題設定」から「自ら計画した観察・実験」へとつながる学習の流れを前面に打ち出し、ワークシートや生徒の実験計画の具体例を示すことで、実践の意義や成果がより分かりやすく伝わるのではないかとの意見も出されました。

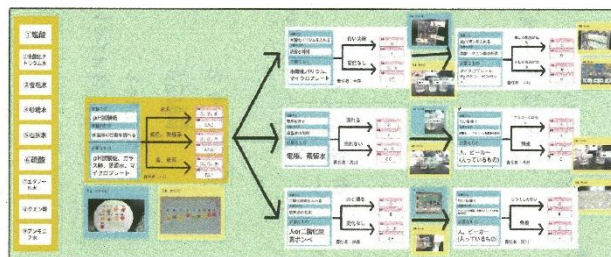
秋の授業公開に向けて

秋の授業公開の授業者である御田中学校の國嶋慎吾先生に、授業案を説明していただきました。

研究協議の中では、フローチャートを用いて探究過程を可視化する発想が興味深いこと

や、課題解決のために根拠を整理する力の育成につながることで、また、実験を単なる作業ではなく思考を伴う活動にできる可能性があることなどの成果について意見が交わされました。

一方で、「目的意識を育てる」というねらいだけではゴールが曖昧であり、最終的にどのような生徒の姿を目指すのかをより具体化する必要があることや、実験カードを教師が与えて並べ替えるだけの活動になると、生徒は探究しているというよりも情報を整理しているだけになってしまう可能性があることが指摘されました。また、現在設定されている4種類の水溶液では、結晶の形だけで判別できる可能性があり、フローチャートを作成する必然性が弱いのではないかという意見も出されました。



名理会 秋の授業公開

令和8年10月14日(水)午後 場所：御田中学校 授業者：國嶋 慎吾先生
実践単元：中1「水溶液の性質」(予定)